

尾州蟹江本町村

鈴木家文書
(二)

由緒書・宗門改帳

は
じ
め
に

さきに鈴木家文書（新田関係その他）を発刊いたしましたが、引き続き 同文書〔二〕由緒書・宗門改帳を発刊するはこびとなりました。

鈴木家（現蟹江家）としては、江戸時代後期（異国船渡来等による政情漸く不安になろうとする時期）に書かれた、蟹江に来住した初代以来の由緒書と、「自家家来」として扱ってきた鳥ヶ地前新田宗門改帳とを併せて通して、由つてきたる土豪の歩み・あり方をうかがう一つとして両冊子をとりあげました。

何れも大切に保存され、完全に近い文書で文字、行間など美しくしたためてあります。

余談ですが、先日、他の所用も兼ねて東京目白の徳川林政史研究所へ参りました。加藤安雄先生の御案内で書庫・収蔵庫等見学し、途中「ここに蟹江家関係の資料が保存してあります」と御教示をいただき驚きました。何と「鳥ヶ地前新田」関係の資料だけでも縦横一メートル近く、奥行き六〇センチもあるうと思われる箱三個にぎっしり入っています。他の幾段かには他の蟹江家関係のものが整然と収められています。鳥ヶ地前新田関係の一冊子をとりあげますと留木扱いの日記で、整然と木端に到るまで記述してあります。他の一冊は蟹江家の日記——驚く程丹念

元唐李欣行草書卷

由緒書

由緒書

周開

一一先祖祐東居士於三河縣城西海華教子

萬文移及江西竹田以上四村地界
水多淺，鷺鷥棲之，故名。

惜其多水，移至細石之信人子，祐之向右集府後

自立
信人子萬文居士同人方，集之

追記

文久武年

海西翁高
地革新國原
川郡役

戊二月

先年送

公氣度

終生仰仰文丹宗門清流度之

委綱承知社當村庄組

五人組之者尚三吟咏社書

卷中覽